

I E A 石油市場レポートの概要（2018年1月19日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2017年と2018年の世界の石油需要見通しは、概ね変化なくそれぞれ9,780万バレル/日と9,910万バレル/日。2016年の需要の4万バレル/日下方修正により、2017年の需要増加は160万バレル/日に増加したが、2018年の需要増加は130万バレル/日と変化ない。
2. 2018年の世界の需要増加の減速は、高い油価の影響、中国での石油使用パターンの変化、最近のO E C D加盟国における需要の軟化及び非O E C D加盟国での天然ガスへの転換が主な原因である。
3. 1 2月の世界の石油供給は、主に北海やベネズエラの算出減によって40.5万バレル/日減少した9,770万バレル/日となった。石油生産量は1年前と比較して同水準であり、これはO P E C加盟国での生産減少を非O P E C加盟国の100万バレル/日の増加が補っているからである。
4. ベネズエラでの生産量の急減が1 2月のO P E C加盟国の原油生産を3,223万バレル/日に引き下げ、減産協定の遵守率を129%に引き上げた。ベネズエラでの減産は加速しており、これは2017年で最大となる計画外の減産である。
5. 2018年の非O P E C加盟国の原油生産量は、米国での急激な増産やカナダとブラジルでの増産によって170万バレル/日引き上げられるだろう（前年は70万バレル/日の増加）。米国の原油生産は1,000万バレル/日を超え、サウジアラビアを上回り、ロシアと匹敵する量になる。
6. 1 1月のO E C D加盟国の民間石油在庫は、1,790万バレル減少し、4ヶ月連続の減少となった（特に中間精製品の大きな減少）。12月の速報値は4,270万バレルの更なる減少を示している。
7. 2017年第4四半期の世界的な原油市場は、O E C D加盟国の大きな在庫減少などで例外的にタイトになった（合わせて推計100万バレル/日の減少）。
8. 1月の原油指標価格は、3年ぶりの高値をつけた。これは、在庫の減少、北海やリビアでの供給問題、地政学的な緊張を反映したものである。しかしながら、物理的市場は軟化し、石油製品価格はこれに合わせた増加にはならなかった。
9. 2017年第4四半期の世界的な精製量は、季節的な減少とならずに8,150万バレル/日と過去最高となった。1 2月に米国がハリケーン前の水準に回復し、中国の精製所が過去最高の四半期精製量の水準で稼働した。精製マージンは、製品在庫増と原油価格の乱高下を受けて縮小した。